

忘れない

校 長 武井 正明

その日もこんな雨の朝だった。でも特段変わらないいつもの朝…。

駐車場に停めると、管理員さんが「おかしいなあ…いつもはこんなところ水はないのに…」丸山さんへんなこと言うな、と思って少しだけいつもより高いところに駐車し直した。

午前これもいつものように授業をしていると近隣のひとつの小学校が午前で下校にしたという。えっ？こんなたいしたことないのに大袈裟な対応だなあ、とその時は思った。

午後5限の3年生の授業を終えて階段を降りようとしたら、生徒が呼び止める。「先生、向こうに何か見えるよ」「えっ！？」「なんかこっち来るよ」

4階から見たのは高い茶色の大きな波。俄かに信じられなかった。映画の1シーンのようだった。えっ？と思ったら速かった。ものの2分で学校は陸の孤島と化した。

平成16年7月13日に起きた「新潟・福島豪雨」

私は当時本成寺中学校にいた。あれから22年が経つ。その秋にも震度6強の中越地震が起きた、忘れられない2004年である。災害はある日突然起きるということを思い知った。

その後、親の迎えで濁流に腰まで浸かりながら帰る生徒以外は、学校に取り残された。

普段は気持ちの安定している生徒の中にも、突然「帰る〜っ!!」と駄々っ子のように泣き出す生徒もいた。幸い電気は点いた。妻は中之島中だった。あそこも今頃大変なことになっているはずだ。泊りだろう。見附の自宅は両親と小1の娘がいる。テレビではいつも見る第四銀行付近が、どっぷり泥水に浸かっていた。両親がいてくれて本当に助かった。

みんな空腹のまま、教室で雑魚寝した。たまたま毛布は相当数あった。

ようやく皆ひとまず寝た、対応はまた明日考えようと思っていたら、深夜に自衛隊ヘリコプターがパンを届けてくれた。勿論ありがたいが、せっかく寝付いたのだから朝起きてから食べさせればいいのに、校長はすぐ起こして食べさせろと言う。何を優先すべきか、今は空腹よりも睡眠じゃないですか？そう意見できない自分の立場が歯痒かった。

翌日嘘のように天気が回復した。同僚や生徒と4階から、スーッときれいに引いていく水を見て力が抜けた。県内外各地の惨状がわかるのはその後である。

三条市内では9名の方が亡くなった。学校の近所は、拭いても取れない泥と、一帯を覆う悪臭とで、梅雨明け前の蒸し暑さがそれをさらに増幅させていた。どこから手をつけたらいいのか、だれもが途方に暮れていた。

そこから三条市は立ち上がったのだ。私はあの時の三条の人達の不屈の精神を、絶対に忘れない。忘れてはいけないのだと思う。